

## 平成25年度の経営協議会における学外委員からの主な意見とその対応状況

平成28年6月28日現在

学外委員からの主な意見	対応状況
<p>大学全体のエネルギー使用量が増加しているにも関わらず、CO2排出量が前年度より0.12%削減できたということについてもう少し表現を工夫して上手くアピールすることができるのではないかと。</p>	<p>今後、実績報告等における本学の省エネルギー対策に関する記載については、年間のエネルギー使用量やCO<sub>2</sub>排出量などの増減を適切に分析した上で、取組が順調に機能していることがアピールできるよう、具体的取組を明示するなど表現の工夫に努めた。</p>
<p>平成24事業年度に係る業務の実績報告書資料4ページ目「平成22～24年度 共通の取組(学長のリーダーシップによる予算配分, 学長裁量定員・人件費の配分方針)」について、本文と同様に概要版にも戦略会議の審議結果を反映して進めていることを記載した方が、誤解を招かないのではないかと。</p>	<p>平成25年8月に実施された国立大学法人評価委員会によるヒアリング資料作成において、予算配分, 学長裁量定員・人件費の配分方針など大学運営に関する重要事項は戦略会議で審議の上、最終的に学長の判断により決定していることを記載した。</p>
<p>社会人の研修プログラムに関し、経営能力及び専門性を高めることはとても重要であるが、それを活用して更にビジネスマン的な能力を高めるような教育プログラムを検討していただきたい。</p>	<p>社会人の研修プログラムとして実施しているアグリ・フードビジネスコースにおいて、平成26年度からビジネスマンとしてのコミュニケーションスキル, プレゼンテーションのスキルを向上させるプログラムとなるよう教育プログラムを編成した。</p>
<p>平成26年度予算編成方針資料1に記載の重点事項について、PDCAサイクルのCheckとActionを踏まえた上で作成したと思われるが、それについて補足説明があると理解しやすくなるのではないかと。</p>	<p>平成26年度の経営協議会において、予算編成方針に記載の「重点事項」は、「国立大学改革プラン」等の国の施策や本学が実施してきたこれまでの取り組みを踏まえ、本学が第2期中期目標期間の最終年度において、「機能強化」を更に加速させるため重点的に取り組むべき事項の概要を示すものであり、具体の予算編成に際しては、この方針に基づき、重点的かつ効果的な予算配分を行う旨の説明を行った。</p>
<p>FSSC22000等の認定取得についてコンサルティングできる人材を、大学が育成するシステムを将来的に構築できないかと。</p>	<p>平成26年4月より地域連携推進センター内に食品安全マネジメントシステム推進室を設置し、実務家教員として特任教授1名を配置した。当面は食品製造・加工業に従事する企業人および就職を希望する学生に対して、FSSC22000などの認証取得に必要な食品安全マネジメントシステムの構築および維持・管理に関する教育を行うが、将来的には本学が当該システムの全国的な普及の中心地となるべく、コンサルティングもできる人材の育成も視野に入れている。</p>
<p>専門分野において、日本人の学生は英語でも対応ができ、留学生は日本語でも対応できるような教育システムを今後検討してもらいたい。</p>	<p>日本人学生については、大学院のカリキュラム検討において、英語による論文作成・口頭発表ができるように英語教育科目を配置するとともに、国際的に活躍できる能力を培うための演習科目「アカデミックプレゼンテーション演習」を平成28年度から開設した。</p>
<p>平成26年度からの教育研究組織の組織図については、企業が作成する指示命令系統を示した組織図と異なり、教育課程, 研究領域, 会議体, 施設が一緒に記載されており、外部の人間が見るとわかりにくい内容となっているので、改善したほうがよい。</p>	<p>第61回経営協議会において、大学全体を網羅した組織図ではなく、本部の位置づけをわかりやすく示した組織図を示して説明し、理解を得た。</p>